

開催日時: 令和5年2月14日(火) 10:00~12:00
 開催場所: 岩手河川国道事務所 2階大会議室

1. 委員 (五十音順) 敬称略

氏名	所属等	備考
伊藤 歩	岩手大学 工学部 教授	欠席
小笠原 敏記	岩手大学 工学部 教授	欠席
木下 光子	盛岡商工会議所 女性会 副会長	WEB
金野 方里	NPO 法人 いわて景観まちづくりセンター 理事	WEB
倉原 崇孝	岩手県立大学 総合政策学部 教授 【座長】	対面
松浦 直人	一般社団法人 盛岡青年会議所 専務理事	対面
寺井 良夫	NPO 法人 もりおか中津川の会 理事	WEB
【中村 正】	【岩手県自然保護協会 事務局長】	辞任
原子 崇史	盛岡商工会議所 産業振興部長	WEB

太田 真	盛岡市 交流推進部長	欠席
小笠原 裕光	盛岡市 都市整備部長	対面
近藤 修	国土交通省 東北地方整備局 岩手河川国道事務所長	対面

2. オブザーバー

藤原 俊夫	岩手県県土整備部 都市計画課	WEB
-------	----------------	-----

3. 事務局

富樫 正幸	盛岡市 都市整備部 公園みどり課長	対面
齊藤 和貴	盛岡市 都市整備部 公園みどり課 計画係長	対面
畑山 紀枝	盛岡市 交流推進部 観光課長	対面
塩田 大輔	盛岡市 交流推進部 観光課 副主幹	対面
木村 晃	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所 副所長	対面
石村 靖	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所 工務第一課長	対面
吉田 健志	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所 同課専門官	対面
杉田 誠司	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所 盛岡出張所長	WEB

第16回 盛岡地区かわまちづくり懇談会

日時: 令和5年2月14日(火)
 10:00~12:00
 会場: 岩手河川国道事務所 大会議室

— 次 第 —

- 開会
- 出席者自己紹介
- あいさつ
- 報告事項
 - 中村正氏からの委員辞職申告
 - 前回懇談会および今年度勉強会の結果等(資料1、6)
 - 水辺空間利活用状況(資料2)
 - モニタリング調査内容と結果(資料3)
 - 事業再評価結果(資料4)
 - その他報告事項(資料5)
- 意見交換
 - かわまちづくり計画に関する事項【資料4】
 - 水辺空間の利活用及び持続的な管理手法に関する事項【資料1、2、3、6】
 - その他かわまちづくりの目的に資する事項【資料5】
- その他
- 閉会



主な意見	事務局からの対応
① 水辺空間の利活用および持続的な管理手法に関する事項について(規約第3条(所掌事項)2および3)	
<p>■開運橋も立派にライトアップされており、それが木伏のライトアップと非常にマッチして良い。ところでライトアップは誰が取り組んでいるのか。</p> <p>■木伏緑地の利活用の一環として、開運橋のライトアップも非常に大きな要素の一つだと思う。そこは一体で考えていくことが大事である。</p>	<p>■開運橋のライトアップは、盛岡市が取り組んでいる(会議当日の回答)。</p>
<p>■かわまちづくりに関しては、内容が非常に豊富なことを実施していると思う。一方で認知度が低いとも個人的には感じているが、事務局で感想又は手応えを教えていただきたい。</p>	<p>■マップをもっとPRすれば欲しいという方々がもっと増えていくと思う。定期的には増刷を行い、追加の配布も続けている(会議当日の回答)。</p> <p>■HPではなく、SNSのほうが非常にタイムリーにいろいろな情報が走り回っているので、うまく使って行けたらと考えている(会議当日の回答)。</p> <p>■インバウト化に向けたサインやパンフレットを作成できるよう予算要求している(その他対応内容(案))。</p>
<p>■オープン化には賛成。5年前に盛岡に来たが、ここに住んでいる人たちがそれほど川の魅力に気付いていないと感じている。オープン化して様々なことが行われることにより、自分たちが、川が身近にあることによる魅力を再認識するきっかけにもなるのではないか。</p>	<p>■盛岡市は、オープン化に向けて活動団体や国と取り組んでいく(対応内容(案))。</p>
<p>■オープン化する際はスキームが記されているが、何らかの体制、手続が必要なのか。</p> <p>■オープン化によって、まちが壊れたりする事はよくないが、逆にしっかりとその辺を守りながら、より生かして活用していくのであれば進めたほうがいいのか。</p>	<p>■懇談会や勉強会のような、様々な立場の方々が参画している会が既にある。そうした方々が、これまでに行われてきた取組や活動が良いとなれば合意が得られたという形になる(会議当日の回答)。</p>

主な意見	事務局からの対応
① 水辺空間の利活用および持続的な管理手法に関する事項について(規約第3条(所掌事項)2および3) 【 続き 】	
<ul style="list-style-type: none"> ■オープン化の申請主体は盛岡市になると思うが、申請の際、日常的な維持管理を全て市が担うというところに限界があり大きな課題でもある。 ■収益が得られれば日常の維持管理に補填出来る可能性もあるので、地域の方や民間と一緒に取り組んでいく必要がある。 ■懇談会のような場をうまく主体にしながら区域設定を行い、協議会の形で主体を考えながらオープン化のビジョンを計画にまとめていく必要があると思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■盛岡市で区域指定について検討中(対応内容(案))。
<ul style="list-style-type: none"> ■ウェブアンケートの中で、今後北上川、中津川でやってみたいことの中に、ウォーキングとランニングの割合が非常に多いが、どこかを起点にした距離表示があると利用しやすい。 ■市のスポーツ推進課が健康ポイントがたまる「MORI—WALKER」というアプリと連携できるといい。 ■河川沿いを含むモデルコースをつくって、それをアプリの中でも紹介すれば、川辺に来るきっかけとしては分かりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ■「MORI—WALKER」のアプリは今まさに実際に稼働しているので、そこうまく連携する可能性はぜひ考えていきたい(会議当日の回答)。 ■距離表示は、盛岡市としては今後検討したい(会議当日の回答)。 ■距離表示については、岩手河川国道事務所もお手伝いできる場所は実施していきたい(会議当日の回答)。
<ul style="list-style-type: none"> ■北上川も中津川も活用するにあたって大きな障害になっているのが草の問題なので、これを行政と市民が連携してクリアできるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ■機械の貸し出しができるように引き続き予算確保に向けて取り組んでいく(対応内容(案))。

主な意見	事務局からの対応
②その他かわまちづくりの目的に資する事項(規約第3条(所掌事項)4) (対外的発信状況を含む)	
<p>■北上川フェスタでのパネル展示は非常にいい取組だと思う。取組の発信というのは非常に重要だ。</p> <p>■若い方が育たないとかいった問題点についても、例えば小学生くらいの小さい子供たちのかわまちづくりに対する認識というのが少しでも認識が変われば、複合的に若い方が育つと思う。</p> <p>■草刈りなどの人力的な確保をするには、人を呼び込む公益性の高い事業も進めていかなければいけない。</p>	<p>■若い人が育つ取り組みについて、勉強会等で議論していく(対応内容(案))。</p>
<p>■ミズベリングというのは、先端を行っている感じの全国的取組であり、水辺での飲食を含めていろんな活動を楽しもうというところで、若い人が好きなテーマなのではないか。</p> <p>■ミズベリングの潜在的なニーズはありそうな気がするので、それを少しずつかわまちづくりサイドに巻き込んでいって、日常的な活動にぜひご参画いただくような流れをつくれるといい。</p>	<p>■ミズベリングについては、活動団体を支援していく(対応内容(案))。</p>
<p>■北上川と中津川で利用形態が違うところが面白い。いろんな特徴や顔があり、いろんな使われ方のある川をアピールすることが大事である。</p> <p>■水面の利用は、むしろ中津川が多いという話で、中津川での水遊びといった使われ方もアピールしてもいいと思う。</p>	<p>■北上川と中津川のアピールの仕方は、その特徴を踏まえて工夫していく。</p>